

第3学年 体育科学学習指導案

令和3年10月27日（水）第5校時
大田区立松仙小学校 3年3組 34名

校内研究のテーマ

体育が大好きな児童の育成

～3つの課題解決の視点を生かして～

1 単元名

B 器械運動(マット運動)「たいようオリンピック2021」

2 単元の目標及び単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の目標	回転系や巧技系の基本的な技の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けることができるようにする。	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
評価の視点を整理	<ul style="list-style-type: none"> ・回転系や巧技系の基本的な技の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知っている。(知識) ・回転系や巧技系の基本的な技を身に付けている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。(思考・判断) ・自己の課題解決のために考えたことを友達に伝えている。(表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動の基本的な技に進んで取り組んでいる。(愛好的態度) ・マットの器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときなどのきまりを守り、誰とも仲良く励まし合っている。(公正・協力) ・器械・器具の準備や片づけを友達と一緒にしている。(責任・参画) ・友達の考えを認めようとしている。(共生) ・場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。(健康・安全)
単元の評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①回転系や巧技系の基本的な技について、言ったり実際に動いたりしている。 ②回転系の基本的な技を身に付けている。 ③巧技系の基本的な技を身に付けている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①自己の課題に応じた練習の場や活動を選んでいる。(思考・判断) ②自己の課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。(表現) 	<ol style="list-style-type: none"> ①マット運動の基本的な技に進んで取り組んでいる。 ②マットの器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときなどのきまりを守り、誰とも仲良く励まし合っている。(公正・協力) ③器械・器具の準備や片づけを友達と一緒にしている。(責任・参画) ④友達の考えを認めようとしている。(共生) ⑤場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。(健康・安全)

3 単元について

○学習指導要領の位置づけ

学習指導要領第3学年及び第4学年の内容B「器械運動」に示された指導事項のうち、ア「マット運動」の指導のために設定されたものである。

1 目標

- (1) 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

2 内容

B 器械運動 器械運動について、次の事項を身に付けることができるようにする。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。
ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をすること。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

○単元観

マット運動は、「背中をマットにつけて回転する技」「手や足の支えで回転する技」(回転系)と「手や足の支えで姿勢を維持する技」(巧技系)に分けられ、日常ではあまり味わうことのできない回転の感覚や体の傾きなどを楽しむことができる運動である。また、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを感じることもできる。

「マット運動」の入門期である3学年ということから、本単元では、マット運動の基本的な技に挑戦し、美しい回転の仕方や身体を支え方を知ることにより重きを置いて単元を構成する。

第1時では、マット運動の決まりや運動の仕方を知り、試しに様々な技に取り組むことで自己の課題を見付ける。そして第2時～第5時で、各時間で扱う技を絞り、基本的な技やそれを生かした発展技に取り組んでいく。そのとき自己の課題を見付ける活動として「見つけタイム」を設定している。「見つけタイム」では、技のポイントを理解し、そのポイントに基づいて友達と見合うことで、自己の課題を見付けることができるようにする。友達との伝え合いの際には、事前に用意されている話型を基にお互いに伝え合う力を身に付けさせたり、他者の技を見る力をつけさせたりしたいと考える。

次に、課題に合った場を選択し、課題解決を行うための「やってみタイム」を設定している。「やってみタイム」では、課題を解決しやすい場作り(平場以外の坂道マットや段差マット)や、補助具(手形・足形、ゴム紐)を選択できるように工夫し、課題解決に向けて個人で選択できる力を身に付けたいと考える。

第6時～第8時では、自己の課題に応じた「やってみタイム」に加え、互いの発表を見合う「楽しみタイム」を設定している。「楽しみタイム」では、技ができるようになった達成感を味わうことができるほか、友達と認め合うことで運動を通してより良い人間関係を築くことができるようになると思われる。

○運動の特性

【一般的特性】

- ・体の回転や倒立など、日常生活では通常行われない動きを含んだ運動である。
- ・回転系と巧技系の技に組み込み、技を身につけたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びに触れることのできる運動である。
- ・技を身につけるために、易しい場や簡易化した動きを取り入れるなどして、できるようになる手立てを講じるのが大切である。

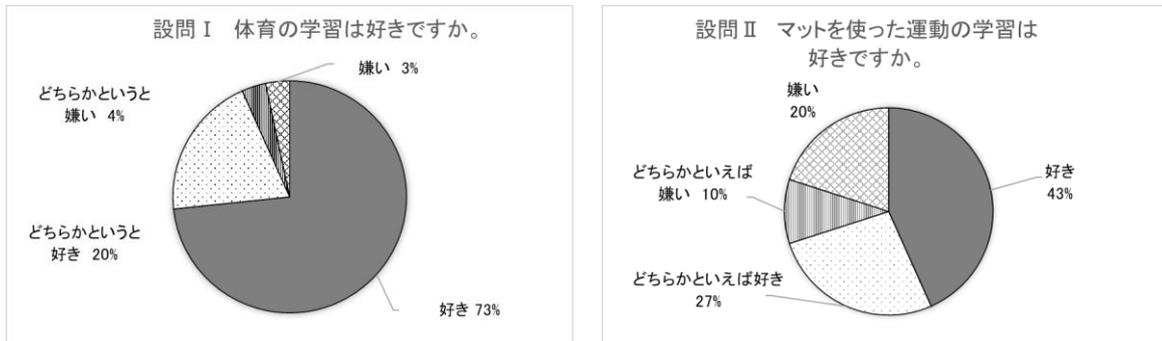
【児童から見た特性】

- ・中学年の児童は、倒立技などのリスクのある技に憧れる傾向がある。しかし、逆さ感覚や腕支持力に不安がある児童にとっては、恐怖感もちやすい運動でもある。
- ・基本的な技を習得していき、発展技や技を組み合わせたりし、できるようになることで、運動の楽しさや喜びに触れることができる。(個人差)

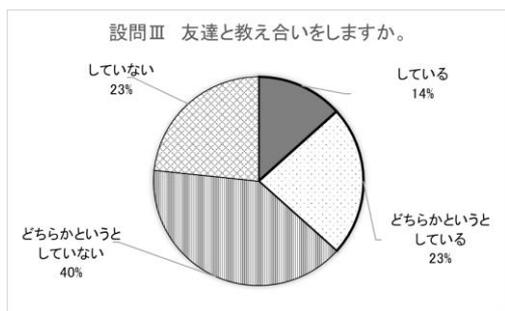
○児童の実態(資料1)

本学級の児童は、体育の授業で、領域に関わらずどの運動にも意欲的に取り組む児童が多い。2学期に行ったゲーム領域の「ベースボール型ゲーム」(T ボール)では、きまりを守り、手でボールを打ったり、仲間に声援を送るなどして仲良く運動を楽しむ姿が見られた。一方で、より良い打ち方や、向かってくるボールの正面に移動するとキャッチしやすいことに気付いても、進んで仲間に声をかける児童は少数であった。

3年3組の児童を対象とした事前アンケートの結果(7月中旬実施)は以下の通りである。



設問 I では、体育が好きな児童は約9割、嫌いな児童が1割であった。設問2では、マット運動が好きな児童は7割、嫌いな児童は3割であった。体育は好きだけれども、マット運動は嫌いと答えた児童が2割程度いる。そのような児童のマット運動が嫌いな理由としては、「怖い。」「痛い。」といった運動に対する恐怖心や、「できない。」「分からない。」といった苦手意識があることが挙げられていた。マット運動が好きな理由としては、「楽しい。」「得意。」「できたときに気持ちがいい。」などが挙げられており、技ができる喜びが好きにつながると考えられる。



設問IIIでは、体育の授業の中で友達と教え合いをしているかについて調査した。そもそも、これまでの授業で教え合いについて、どのようなことをいつ教え合うか等丁寧に示してこなかった。そのため、していると答えた児童は約4割、していないと答えた児童は約6割となっており、半数近くの児童は教え合いを意識していないことが分かった。教え合いをしていない理由としては、「何を言えばいいか分からない。」「自分自身が運動について分かっていない。」と答えた児童が多かった。

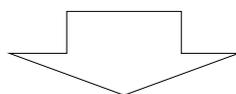
アンケートの結果から、以下の3点の手立てが有効であると考えられる。

- ①「痛い。」「怖い。」という思いを抱かないようにするために教材・教具の工夫をする。
- ②児童が技のポイントを意識しながらスモールステップを踏み、「できた。」という達成感を感じることができるようにするために教材・教具の工夫をする。
- ③技のポイントを明確にすることで、友達同士で教え合うことができるようにする。

以上の3点を踏まえて学習過程を計画し、児童が「わかった。」「できた。」「楽しい。」とマット運動の楽しさや喜びを感じることで学習を目指す。

○課題解決の視点

- ①課題を見付ける導入の工夫
- ②課題解決に効果的に取り組むための指導の工夫
- ③課題解決に向けた考えを再構築する振り返りの工夫



課題を見付ける導入の工夫	<p>事前アンケート・オリエンテーション</p> <p>・児童が見通しをもって学習に取り組めるように、1 時間目にオリエンテーションを行い、準備の仕方や全体の流れを共通理解したり、自己の課題を見つけたりさせる。</p>
--------------	--

	<p>ねこちゃん体操</p> <ul style="list-style-type: none"> 主運動をやりやすくするように、よく使う体の部位を中心に動かすことを意識させながら準備運動を行う。具体的には、パワーアップタイムに、感覚づくりの運動(ねこちゃん体操)に取り組みせる。
<p>課題解決に効果的に取り組むための指導の工夫</p>	<p>場の設定・用具</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が技に取り組む際に、恐怖心を抱かないように、場や用具を工夫する。(壁倒立に壁にマットをつける、壁登り逆立ちで肋木を活用する。) 児童が自己の技能の程度に応じて基本的な技や発展的な技に取り組めるように、運動の場や用具を工夫する。(踏切板をマットの下に入れて坂道をつくる、細いマットを重ねて段差をつくる、側方倒立回転の手足の順が分かるよう手形・足形のあるマットをつくる、など。) <p>掲示・学習カード</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自己の課題に気付いたり、友達と見合っって教え合ったりすることができるよう、学習カードに技のポイントを示す。示すポイントは各技につき3個程度にし、児童が自身で気付いたポイントも書き込めるようにする。また、学習カードは拡大をして掲示物にし、個人が気付いた技のポイントを全体で共有できるようにする。 <p>言葉がけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と技を見合った際に、学習カードのポイントに基づいて出来ばえがどうであったか話し合う機会を設ける。その際、「今の動きは金(銀・銅)メダルだったよ。なぜならば、～からだよ。」という話型を用いて、児童が友達の試技を評価し、自分の考えを表現することができるようにする。 <p>グループについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 技のポイントや気付きを共有し、質の向上につながるように、苦手意識のある児童とマット運動を得意と感じている児童の4人1組を作り、お互いに励まし合ったり、教え合ったりする活動を行わせる。 <p>単元構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題をもち、技ができるように、段階的に習得できる運動を行う。各2～5時間目に1～2つずつ技を知り、6・7時間目に自己の課題を練習できるようにする。また、8時間目にたいようオリンピックを行い、楽しみながら活動を行えるよう単元構成を工夫する。 <p>たいようオリンピックの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が目標をもって、意欲的に取り組むことができるよう、単元の終わりに「たいようオリンピック」を開催し、ペアグループでお互いの技を見合う時間を設定する。この発表会では、学習カードに示された3つのポイント・着地・場・発展的な技であるかどうかについて加点式で得点できるようにする。苦手意識のある児童が補助の場で試技をしても得点できるようにすることで、「できた。」という達成感を感じることができるようにする。
<p>課題解決に向けた考えを再構築する振り返りの工夫</p>	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の始めや終わりに技のポイントを掴んだり、技の質が高まったりするようにお手本とする映像を視聴する。 <p>学習カード</p> <ul style="list-style-type: none"> 1時間ごとの学びが明確になり、自己と向き合えるように、2種類のワークシートを用意する。1種類目は技の絵と3つのポイントについて記録できるようにし、2種類目は振り返りや次の目標について書けるようにする。

4 単元の指導と評価の計画(8時間)

時間	1	2	3	4	5	6	7(本時)	8	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもち、課題を設定する。 運動の行い方を確認し、場の安全に気を付けて運動する。 	回転系の基本的な技の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知る。	回転系の基本的な技の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知る。	巧技系の基本的な倒立技の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知る。	巧技系の基本的な回転技の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知る。	自己の能力に適した課題を見つけ、その課題の解決のための活動を選ぶことができる。	自己の課題解決のために考えたことを友達に伝えている。	これまでに学習してきたことを生かして、たいようオリンピックに進んで取り組む。	
学習活動	○集合・挨拶・用具の準備・めあての確認・準備運動をする。								
	マット運動のきまりや、運動の仕方を知ろう。	前転・開きゃく前転にちょう戦しよう。	後転・開きゃく後転にちょう戦しよう。	かべとう立にちょう戦しよう。	そく方とう立回転にちょう戦しよう。	自分のかだいに合った場をえらんで、練習しよう。	自分のかだいを友達につたえて練習しよう。	たいようオリンピックを楽しもう!	
	パワーアップタイム ねこちゃん体操に取り組む。		パワーアップタイム ねこちゃん体操に取り組む		パワーアップタイム ねこちゃん体操に取り組む				
	オリエンテーション ○学習内容や、安全の約束、場の準備や片付けの仕方を知る。 ○様々な技に取り組み、今できる技・できるようになりたい技を確認する。	見つけタイム ○回転系の基本的な技(前転・易しい場での開脚前転)に取り組む。	見つけタイム ○回転系の基本的な技(後転・開脚後転)に取り組む。	見つけタイム ○巧技系の基本的な倒立技(壁のぼり逆立ち・壁倒立)に取り組む。	見つけタイム ○回転系の基本的な倒立技(腕立て横跳びこし・側方倒立回転)に取り組む。	やってみタイム ○自己の課題に合わせた練習を行う。	たのしみタイム ○ペアグループでたいようオリンピック(技の発表会)を開き、マット運動を楽しむ。		
		やってみタイム ○自分の挑戦したい技に取り組む。				たのしみタイム ○たいようオリンピックのリハーサルを行う。			
○整理運動・まとめ・学習の振り返り・片付けを行う。									
	(次時の見通し) 前転・易しい場での開脚前転に取り組むことを確認する。	(次時の見通し) 後転・開脚後転に取り組むことを確認する。	(次時の見通し) 壁のぼり逆立ち・壁倒立に取り組むことを確認する。	(次時の見通し) 腕立て横跳びこし・側方倒立回転に取り組むことを確認する。	(次時の見通し) 自分で選んだ技に取り組むことを確認する。	(次時の見通し) オリンピックのリハーサルも行うことを確認する。	(次時の見通し) 技の発表会に取り組むことを確認する。		
知		① (観察・カード)	② (観察・カード)	③ (観察・カード)	② (観察・カード)				
思						① (観察・カード)	② (観察・カード)		
主	① (観察・カード)	② (観察・カード)	③ (観察・カード)				④ (観察・カード)	⑤ (観察・カード)	

5 本時の活動計画(7/8時間目)

(1)本時の目標

- ・回転系や巧技系の基本的な技について、言ったり実際に動いたりしている。(知識・技能)
- ◎自己の課題解決のために考えたことを友達に伝えている。(思考・判断・表現)
- ・友達の考えを認めようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(2)本時の展開

○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え	* 教師の指導・支援 ☆評価規準【観点】(評価方法)
<p>1 あいさつ めあての確認(1分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分のかだいを友だちに伝えて、練習しよう。 </div> <p>2 場の準備(3分)</p> <p>3 準備運動(2分)</p> <p>4 パワーアップタイム(3分) ○ねこちゃん体操</p>	<p>*安全に気を付けて、協力して取り組んでいる児童を称賛する。</p> <p>*運動で使う体の部位を意識できるように声をかける。</p> <p>*器械運動で必要な感覚(体幹コントロール)を養うことができるよう、ポイントについて声をかける。</p>
<p>5 やってみタイム(19分)</p> <p>○自分の決めた課題に合わせて場を選んで運動する。 同じ場にいる友達に技のどこに気を付けるか、宣言してから取り組む。</p>	<p>*マット運動のきまりや安全について全体で確認する。</p> <p>*自分の課題に合わせて場や補助具を選べるようにする。場の形は児童の活動の様子によって変更する。(坂道マットを増やす等。)</p> <p>*児童の課題を見ながら、できていることを称賛したり、ポイントを指導したりする。</p>
<p>6 楽しみタイム(7分)</p> <p>○チーム内で課題を伝え合い、課題を再認識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁のぼり倒立をがんばるよ。 ・開脚後転で着地をピシッとしたいな。 ・側方倒立回転で手と足の順番に気を付けるよ。見ていてね。 <p>○たいようオリンピック(技の発表会)に向けた練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は、坂道マットで後転をするよ。 ・私は、何も使わないで側方倒立回転をしてみせるよ。 ・私は、前転で手をつかずに立ち上がるよ。 	<p>*課題を再認識できるように友達に課題と練習方法について伝え合うように声をかける。</p> <p>*技のどこに気を付けるか、グループの人に宣言してから取り組むようにする。</p> <p>*多くとも3回同じ技に取り組んだら、次の人と交代するよう声をかける。</p> <p>*さらに上手にできるようにするために友達にアドバイスをしている児童を称賛する。</p> <p>☆自己の課題解決のために考えたことを友達に伝えている。【思考・判断・表現】(観察・学習カード)</p>
<p>7 整理運動(2分)</p> <p>8 全体での振り返り(2分)</p> <p>9 個別での学習の振り返り(3分)</p> <p>10 片付け(3分)</p>	<p>*使った部位を意識してほぐすように声をかける。</p> <p>*友達にアドバイスしたことを具体的に振り返ることができた児童を称賛する。</p> <p>*協力して、素早く片付けることができるように声を掛ける。</p>